



Amazon EVS 用のNetApp Disaster Recoveryを構成する

NetApp Disaster Recovery

NetApp
February 04, 2026

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/data-services-disaster-recovery/reference/evs-deploy-guide-config-draas.html> on February 04, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Amazon EVS 用のNetApp Disaster Recoveryを構成する	1
Amazon EVS 向けNetApp Disaster Recoveryの構成の概要	1
NetApp Disaster Recoveryを使用した Amazon EVS の前提条件	1
NetApp Disaster Recoveryを使用して Amazon EVS のNetApp Consoleシステムにオンプレミス アレイを追加する	2
NetApp Consoleシステムにオンプレミスのストレージアレイを追加する	2
Amazon FSx for NetApp ONTAPストレージインスタンスをNetApp Consoleシステムに追加する	3
Amazon EVS のNetApp ConsoleアカウントにNetApp Disaster Recoveryサービスを追加します	3
ライセンス タイプ	3
災害復旧能力のニーズを予測する	4
NetApp Disaster Recovery for Amazon EVS にサイトを追加する	5
オンプレミスサイトを作成する	5
Amazonクラウドサイトを作成する	5
NetApp Disaster Recoveryにオンプレミスおよび Amazon EVS vCenter クラスターを追加する	6

Amazon EVS 用のNetApp Disaster Recoveryを構成する

Amazon EVS 向けNetApp Disaster Recoveryの構成の概要

NetApp Consoleエージェントをインストールした後、災害復旧プロセスに参加するすべてのONTAPストレージと VMware vCenter リソースをNetApp Disaster Recoveryと統合する必要があります。

- ["NetApp Disaster Recoveryを使用した Amazon EVS の前提条件"](#)
- ["NetApp Disaster RecoveryにONTAPストレージアレイを追加する"](#)
- ["Amazon EVS でNetApp Disaster Recoveryを有効にする"](#)
- ["NetApp Disaster Recoveryに vCenter サイトを追加する"](#)
- ["NetApp Disaster Recoveryに vCenter クラスタを追加する"](#)

NetApp Disaster Recoveryを使用した Amazon EVS の前提条件

Amazon EVSをNetApp Disaster Recoveryで構成するための要件を確認し、満たしていることを確認してください。

前提条件

- ["Disaster Recovery の一般的な前提条件"](#)を確認します。
- NetApp Disaster Recovery が必要な操作を実行するために必要な特定の VMware 権限を持つ vCenter ユーザー アカウントを作成します。



デフォルトの「administrator@vsphere.com」管理者アカウントは使用しないことを推奨します。代わりに、ディザスタリカバリプロセスに参加するすべてのvCenterクラスタ上で、NetApp Disaster Recovery専用のユーザーアカウントを作成してください。必要な特定の権限の一覧については、["NetApp Disaster Recoveryに必要な vCenter 権限"](#)をご参照ください。

- Disaster Recoveryで保護されるVMをホストするすべてのvCenterデータストアが、NetApp ONTAPストレージリソース上に配置されていることを確認してください。

Disaster Recoveryは、Amazon FSx for NetApp ONTAP使用時に、iSCSI上のNFSとVMFS（FCではない）をサポートします。Disaster RecoveryはFCをサポートしていますが、Amazon FSx for NetApp ONTAPはサポートしていません。

- Amazon EVS vCenterがAmazon FSx for NetApp ONTAPストレージクラスタに接続されていることを確認してください。
- 保護されているすべての VM に VMware Tools がインストールされていることを確認します。
- オンプレミスネットワークが、Amazon が承認した接続方法を使用して AWS VPC ネットワークに接続されていることを確認してください。AWS Direct Connect、AWS Private Link、または AWS Site-to-Site

VPN を使用することをお勧めします。

- Disaster Recovery を使用した EVS の接続およびポート要件を確認し、準拠していることを確認します。

ソース	デスティネーション	ポート	詳細
Amazon FSxN	オンプレミス ONTAP	TCP 11104、11105 、ICMP	SnapMirror
オンプレミス ONTAP	Amazon FSxN	TCP 11104、11105 、ICMP	SnapMirror
NetApp Console エージェント	オンプレミス ONTAP	TCP 443、ICMPのみ	API呼び出し
NetApp Console エージェント	Amazon FSxN	TCP 441、ICMPのみ	API呼び出し
NetApp Console エージェント	vCenter（オンプレミス、EVS）、ESXiホスト（オンプレミス、EVS）	443	API呼び出し、スクリプト実行

NetApp Disaster Recoveryを使用して Amazon EVS のNetApp Consoleシステムにオンプレミス アレイを追加する

NetApp Disaster Recoveryを使用する前に、オンプレミスおよびクラウドホストのストレージ インスタンスをNetApp Consoleシステムに追加する必要があります。

次の操作を行う必要があります。

- オンプレミスのアレイをNetApp Consoleシステムに追加します。
- Amazon FSx for NetApp ONTAP (FSx for ONTAP) インスタンスをNetApp Consoleシステムに追加します。

NetApp Consoleシステムにオンプレミスのストレージアレイを追加する

オンプレミスのONTAPストレージ リソースをNetApp Consoleシステムに追加します。

1. NetApp Consoleシステム ページから、[システムの追加] を選択します。

[システムを追加]

2. 「システムの追加」 ページで、「オンプレミス」 カードを選択します。

[システムイメージを追加する]

3. On-Premises ONTAPカードで **Discover** を選択します。

[システムイメージを追加する]

4. 「クラスターの検出」 ページで、次の情報を入力します。

- a. ONTAPアレイクラスタ管理ポートのIPアドレス

b. 管理者のユーザー名

c. 管理者パスワード

5. ページの下部にある*Discover*を選択します。

[システムイメージを追加する]

6. vCenter データストアをホストする各ONTAPアレイに対して手順 1 ～ 5 を繰り返します。

Amazon FSx for NetApp ONTAPストレージインスタンスをNetApp Consoleシステムに追加する

次に、Amazon FSx for NetApp ONTAPストレージリソースをNetApp Consoleシステムに追加します。

1. NetApp Consoleシステム ページから、[システムの追加] を選択します。

[システムイメージを追加する]

2. 「システムの追加」 ページから、**Amazon Web Services** カードを選択します。

[システムイメージを追加する]

3. Amazon FSx for ONTAPカードの **Discover Existing** リンクを選択します。

[システムイメージを追加する]

4. FSx for ONTAPインスタンスをホストしている認証情報と AWS リージョンを選択します。

5. 追加する FSx for ONTAPファイル システムを 1 つ以上選択します。

6. ページの下部にある*Discover*を選択します。

[システムイメージを追加する]

7. vCenter データストアをホストする各 FSx for ONTAPインスタンスに対して手順 1 ～ 6 を繰り返します。

Amazon EVS のNetApp ConsoleアカウントにNetApp Disaster Recoveryサービスを追加します

NetApp Disaster Recovery はライセンス製品であり、使用する前に購入する必要があります。ライセンスにはいくつかの種類があり、ライセンスを購入する方法もいくつかあります。ライセンスにより、特定の期間にわたって特定の量のデータを保護する権利が付与されます。

NetApp Disaster Recoveryライセンスの詳細については、以下を参照してください。["NetApp Disaster Recoveryのライセンスを設定する"](#)。

ライセンス タイプ

ライセンスには主に 2 つの種類があります。

- NetAppは["30日間試用ライセンス"](#)ONTAPおよび VMware リソースを使用してNetApp Disaster Recovery を評価するために使用できます。このライセンスでは、保護された容量を無制限に 30 日間使用できます。
- 30 日間の試用期間を超えて DR 保護が必要な場合は、製品ライセンスを購入してください。このライセンスは、NetApp のクラウド パートナーのマーケットプレイスを通じて購入できますが、このガイドでは、Amazon AWS Marketplace を使用してNetApp Disaster Recoveryのマーケットプレイス ライセンスを購入することをお勧めします。Amazonマーケットプレイスでライセンスを購入する方法の詳細については、["AWS Marketplace からサブスクライブする"](#)。

災害復旧能力のニーズを予測する

ライセンスを購入する前に、保護する必要があるONTAPストレージ容量を把握しておく必要があります。NetApp ONTAPストレージを使用する利点の 1 つは、NetApp がデータを保存する際の効率性が高いことです。ONTAPボリュームに保存されるすべてのデータ (VMware データストアをホストする VM など) は、非常に効率的な方法で保存されます。ONTAP は、物理ストレージにデータを書き込むときに、圧縮、重複排除、圧縮という 3 種類のストレージ効率をデフォルトに設定します。最終的な結果は、保存されるデータの種別に応じて、1.5:1 から 4:1 のストレージ効率になります。実際、NetAppは ["ストレージ効率保証"](#)特定のワークロード向け。

NetApp Disaster Recovery は、すべてのONTAPストレージ効率が適用された後にライセンスの目的で容量を計算するため、これは有益です。たとえば、サービスを使用して保護する 100 台の仮想マシンをホストするために、vCenter 内に 100 テラバイト (TiB) の NFS データストアをプロビジョニングしたとします。さらに、データがONTAPボリュームに書き込まれるときに、自動的に適用されるストレージ効率化技術により、これらの VM が消費するストレージ効率は 33TiB のみ (3:1 のストレージ効率) になると仮定します。NetApp Disaster Recovery のライセンスは、100TiB ではなく 33TiB のみ必要です。これは、他の DR ソリューションと比較した場合、DR ソリューションの総所有コストにとって非常に大きなメリットとなります。

手順

1. 保護対象の VMware データストアをホストしている各ボリュームで消費されているデータ量を確認するには、各ボリュームに対してONTAP CLI コマンドを実行して、ディスク上の容量消費量を確認します。

```
volume show-space -volume < volume name > -vserver < SVM name >。
```

例えば：

```
cluster1::> volume show-space
Vserver : vm-nfs-ds1
Volume  : vol0
Feature                                Used      Used%
-----
User Data                             163.4MB    3%
Filesystem Metadata                   172KB     0%
Inodes                               2.93MB    0%
Snapshot Reserve                      292.9MB    5%
Total Metadata                        185KB     0%
Total Used                            459.4MB    8%
Total Physical Used                   166.4MB    3%
```

2. 各ボリュームの*Total Physical Used*の値をメモします。これは、NetApp Disaster Recovery が保護する必要があるデータの量であり、ライセンスが必要な容量を決定するために使用する値です。

NetApp Disaster Recovery for Amazon EVS にサイトを追加する

VM インフラストラクチャを保護する前に、保護対象の VM をホストしている VMware vCenter クラスターと、それらの vCenter が配置されている場所を特定する必要があります。最初のステップは、ソース データ センターと宛先データ センターを表すサイトを作成することです。サイトは障害ドメインまたは回復ドメインです。

以下を作成する必要があります。

- 実稼働 vCenter クラスターが存在する各実稼働データセンターを表すサイト
- Amazon EVS/ Amazon FSx for NetApp ONTAPクラウドデータセンターのサイト

オンプレミスサイトを作成する

本番環境の vCenter サイトを作成します。

手順

1. NetApp Consoleの左側のナビゲーション バーから、保護 > ディザスタ リカバリ を選択します。
2. NetApp Disaster Recoveryの任意のページから、サイト オプションを選択します。

[サイトオプション]

3. [サイト] オプションから [追加] を選択します。

[サイトオプションの追加オプション]

4. [サイトの追加] ダイアログ ボックスで、サイト名を入力します。
5. 場所として「オンプレミス」を選択します。
6. *追加*を選択します。

[サイト作成ダイアログボックス]

他に本番環境の vCenter サイトがある場合は、同じ手順で追加できます。

Amazonクラウドサイトを作成する

Amazon FSx for NetApp ONTAPストレージを使用して Amazon EVS の DR サイトを作成します。

1. NetApp Disaster Recoveryの任意のページから、サイト オプションを選択します。

[サイトオプション]

2. [サイト] オプションから [追加] を選択します。

[サイトページのオプションの追加]

3. [サイトの追加] ダイアログ ボックスで、サイト名を入力します。
4. 場所として「AWS-EVS」を選択します。
5. *追加*を選択します。

[ダイアログボックスの追加]

結果

これで、本番 (ソース) サイトと DR (宛先) サイトが作成されました。

NetApp Disaster Recoveryにオンプレミスおよび Amazon EVS vCenter クラスターを追加する

サイトが作成されたら、NetApp Disaster Recoveryの各サイトに vCenter クラスターを追加します。各サイトを作成するときに、各サイトの種類を指定しました。これにより、NetApp Disaster Recovery は、各サイト タイプでホストされている vCenter に必要なアクセス タイプを把握できるようになります。Amazon EVS の利点の 1 つは、Amazon EVS vCenter とオンプレミスの vCenter の間に実質的な違いがないことです。どちらも同じ接続および認証情報が必要です。

各サイトにvCenterを追加する手順

1. サイト オプションから、必要なサイトの **vCenter** の追加 を選択します。

[vCenterオプションの追加]

2. [vCenter サーバーの追加] ダイアログ ボックスで、次の情報を選択または入力します。
 - a. AWS VPC 内でホストされるNetApp Consoleエージェント。
 - b. 追加する vCenter の IP アドレスまたは FQDN。
 - c. 異なる場合は、ポート値を vCenter クラスター マネージャが使用する TCP ポートに変更します。
 - d. 以前に作成したアカウントの vCenter ユーザー名。NetApp NetApp Disaster Recoveryが vCenter を管理するために使用します。
 - e. 指定されたユーザー名の vCenter パスワード。
 - f. 会社が外部の証明機関 (CA) または vCenter エンドポイント証明書ストアを使用して vCenter にアクセスする場合は、[自己署名証明書を使用する] チェックボックスをオフにします。それ以外の場合は、ボックスをオンのままにしておきます。
3. *追加*を選択します。

[vCenter の追加ダイアログボックス]

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。